

広域連合 議論進まず

長野・飯田 15日にサミット 浜松市参加

三遠南信道の整備難航

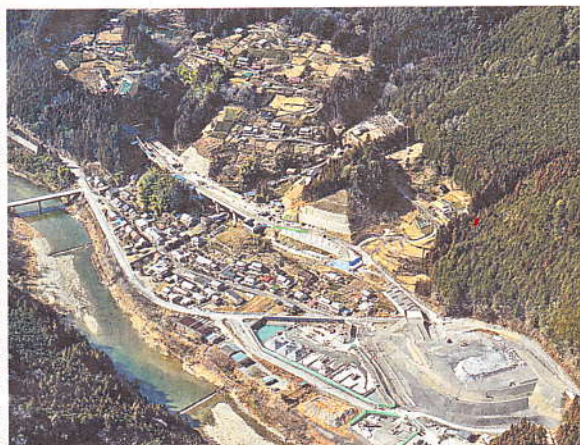
遠州と愛知県東三河、長野県南信州の県境を越えた連携を図る官民連携組織「三遠南信地域連携ビジョン推進会議（SEN A）」による三遠南信サミットが15日、長野県飯田市で開かれる。ことしで24回目を迎えるが、サミット宣言は毎回抽象的な内容に終始し、目標としていた2016年度内の広域連合の設置は厳しい状況。3県をまたぐ三遠南信自動車道の整備は進むが、全線開通のめども立っていない。（浜松総局・寺田将人）

今回のテーマは「みちがはぐくむ三遠南信の未来」。その基盤となる三遠南信道は総延長約100キロの高規格道路で、供用が一部で始まっている。17年度も順次部分開通

するが、詳細なルートが決まっていない区間もある。最難関工事とされる長野県と静岡県を結ぶ青崩峠トンネルの開通には10年前後かかると思われる。

今回のサミット宣言を受けて発足した三遠南信地域35市町村でつくる「三遠南信広域連携研究会」が地

整備が進む三遠南信自動車道の工事現場。全線開通のめども立っていない。8日、浜松市天竜区佐久間町本社へリ「ジェリコ1号」から



Q

三遠南信自動車道 中央自動車道の飯田山本インターチェンジ（IC・長野県飯田市）と新東名高速道の浜松いなさジャンクション（浜松市北区）を結ぶ。

2017年度に飯田東IC―龍江IC（いずれも飯田市）間の供用が開始。18年度に佐久間IC（浜松市天竜区）―東栄IC（愛知県東栄町）間、19年度に龍江IC―天龍峡IC（いずれも飯田市）間が開通予定。

域連携の現状などを報告する。連携の在り方や活用できる制度などを整理・検討してきたが、同研究会に意思決定の権限はない。藤野仁（SEN A事務局長）は「SEN Aに具体的な動きが見えない」と指摘があるのは事実」と認める。

サミットではこれまで広域連合の事業内容や具体像、設置の利点などを明確に示せていない。すでに南信州や東三河地域では別の広域連合があり、自治体間の足並みがそろっていない。

SEN A会長の鈴木康友（浜松市長）は「新しい広域連合を作るのか、既存の広域連合へ入るに連携の仕組みを考えるのか協議を進めたい」と述べるにとどめる。